

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
F・Cフチガミ医療福祉専門学校		平成2年12月20日		宮本 恵実子		〒810-0021 福岡県福岡市中央区今泉1-4-18 (電話) 092-737-3153																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人実教学園		平成2年12月20日		吉田 登志子		〒810-0021 福岡県福岡市中央区今泉1-4-18 (電話) 092-737-3153																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こどもみらい科				平成29年文部科学省告示 号外第39号	-																		
学科の目的	卒業と同時に「保育士」資格ならびに「幼稚園教諭」免許を取得することに加えて卒業後、即戦力として活躍できるよう保育・養護・教育のあり方を具体的にとらえつつ子どもの発達、成長に必要な環境を考え、創り出そうとする保育士、幼稚園教諭を養成することを目的とする。																								
認定年月日	平成30年2月28日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
3年	夜間	2206	998	350	730		128																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
60人	14人	0人	7人	11人	18人																				
学期制度	特に学期を分けることは行わず、年間を通して規定の授業を行う。 4月7日～2月26日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績の評価は、試験、学習態度、出席状況等を考慮し行う。成績の評価は60点以上を合格とし、次の基準による。A: 100～85点、B: 84～70点、C: 69～60点、D: 59点以下とし、教科担当教員が年度末に行う。																				
長期休み	■夏季: 8月4日～8月17日 ■冬季: 12月23日～1月12日 ■学年末: 2月27日～3月31日			卒業・進級条件	卒業及び進級条件は、原則として、規定のカリキュラムを履修し、その認定を受けることとする。但し、1年度当たりの必修科目のうち単位不認定科目が1科目以上のものについては、仮に進級を認めることが出来る。最終学年終了時において単位不取得科目が3科目以上ある場合は留年とする。この場合、翌年度に単位未取得科目を履修することにより、卒業の判定を行う。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・生活指導: アルバイトの届出を担任・校長が確認、出席状況を見守り、欠席や遅刻を重ねる学生に対し、欠時不良による単位不認定となる前に面談、電話連絡、保護者等への文書連絡等による指導を行っている。 ・学習指導・支援: 学習状況を把握し、担任が個別指導を実施している。質問事項を教科担当者に確認し、連携して学生を指導する。 ・実習指導・支援: 実習担当教員が実習先指導者と連携を取り合い、実習内容の事前すり合わせを行い、実習中は、実習先を巡回し、学生指導および支援を行う。担任は、担当教員と連携し実習中の学生を支援する。			課外活動	■課外活動の種類 学生委員会によるスポーツ大会等学校行事の企画運営ボランティア活動(学校周辺の清掃活動等)  ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等 保育所、認定こども園、幼稚園、児童発達支援センター等  ■就職指導内容 キャリア教育の一環として授業を開催し、社会人としての働くための知識、スキル、心構え、履歴書の書き方、身だしなみ等を教育している。  ■就職希望者数: 7人 ■就職者数: 7人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100%  ■その他 ・進学者数: 0人  (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	保育士	①	7人	6人	幼稚園教諭二種免許	①	7人	6人	社会福祉主事任用資格	①	7人	7人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
保育士	①	7人	6人																						
幼稚園教諭二種免許	①	7人	6人																						
社会福祉主事任用資格	①	7人	7人																						
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和5年4月1日時点において、在学者18名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年4月1日時点において、在学者19名(令和6年3月31日卒業者を含む) 令和7年4月1日時点において、在学者14名(令和7年4月1日入学者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由および退学しての進路変更。 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じカウンセリング、学費納入等に関する相談および就職・進学相談を実施している。			中退率	10% ※令和7年度より募集停止																				

<p>経済的支援 制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">有</span>・無 学費の分割納付制度、奨学金制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付：<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">給付対象</span>・<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">非給付対象</span></p>
<p>第三者による 学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">有</span>・<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">無</span> ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科の ホームページ URL</p>	<p><a href="http://www.medical.ac.jp/">http://www.medical.ac.jp/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近畿大学九州短期大学通信教育部のカリキュラムを併修するため、近畿大学九州短期大学の指定するカリキュラム、教材・指導者・教育時間数等の要件を満たすうえで、当校独自のカリキュラムとして姉妹園である「高宮くすくすの丘保育園」や本校付属の地域型小規模保育事業所「浄水通くすくすナーサリー」の見学・実習等の科目を追加している。この教育課程をさらに実務に即したものとすため、教育課程編成委員会を編成し、教育活動に関する評価を行うとともに業界の要請を反映させながら教育課程を検討・構築することとしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程の検討機関であり、校長、教務課長、教育課程編成委員会各部長の長、対象科の学生が就職する業種を主な生業とする企業や施設関係者、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員、その他学校長が必要と認める者より構成される。委員会においては、教育課程案の内容や教育方法を確認し、より実践に即した人材の育成に向けての教育課程の検証が行われている。学校内の各部長において検討され教務が作成した教育課程案について教育課程編成委員会において検討し、意見を提案する。校長はこれを受け教育課程を決定し、教務および各教育部会に向けて周知し、その実施方法に工夫・検討を重ね実施すると共に教務は、これを全講師に向けて周知する。目的の達成に向けてより効果的なものとするよう教育課程の改編に関する提案・検討を行いPDCAサイクル実施する。

・校務運営規程 第9条

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
原 祐一	原土井病院 副理事長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	①
福泉 公仁隆	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター 医療管理企画運営部長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
西山 謙	日本診療情報管理士会 評議員	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	②
折岡 健太郎	久留米大学病院 腫瘍センター事務室内 がん登録係 課長補佐	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	②
大知 正典	早良病院 事務部 医事課・診療情報管理課 課長代理	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
井上 将彦	医療法人聖峰会 マリン病院 事務長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
村上 千津	高宮くすくすの丘保育園 園長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	③
天野 裕二	F・Cフチガミ医療福祉専門学校 事務長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	
宮本 恵実子	F・Cフチガミ医療福祉専門学校 校長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	
井手口 大剛	F・Cフチガミ医療福祉専門学校 副校長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	
藤原 杏菜	F・Cフチガミ医療福祉専門学校 教務課 担当	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	
寺西 正砂	F・Cフチガミ医療福祉専門学校 教員 養成科部会部会長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	
片山 敏克	F・Cフチガミ医療福祉専門学校 教員 医療部会部会長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	
山下 和子	F・Cフチガミ医療福祉専門学校 教員 保育部会部会長	2024年4月1日～2026年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年度内に2回以上の開催(原則6月、12月)

第1回 令和6年 6月 1日 15:00～16:30

第2回 令和6年12月14日 15:00～16:05

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

子どもの発達段階には個体差があり、教科書の通りでない場合がある。子どもの状態をよく観察し、子どもの発達状態にあった保育をする必要がある。また、子どもとの遊び方においても同様で臨機応変にする必要がある等の意見があり、保育実習における子どものかかわり方などの指導を充実させることの重要性が意見された。更に実習先の指導者が効果的な指導を行えるよう学生の状況や学校側の要望をよく知らせておく必要があると意見された。これを受け実習効果の更なる向上の為、座学で学ぶ内容、本校が実習で学ばせたい内容を実習担当者に明示する事となった。具体的な方策としては、実習配属前までの学習内容(カリキュラム)・実習事前指導の状況、実習に求める具体的な教育内容を取りまとめ、実習前に実習担当教員が実習先の指導者と協議を行った上で学生にオリエンテーションすることとなった。

幼稚園教諭2種免許の取得をせず、保育をより深く学びたい学生の保育士として実践力向上を目指すためには、より多くの体験をし、理論と実践を統合する方向性を見出すべきとの教育課程編成委員から意見があり、教育課程編成委員が所属されている保育園も積極的に受け入れる考えであるとの意見を頂き、実習先の保育所・施設と連携して10日間の追加保育士現場実習または、保育士インターンシップ実習で、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践を学ぶカリキュラムを編成する事になった。

「造形表現」や「児童文化」の授業で、パネルシアターや紙芝居、手袋人形等現場で活用できる教材を各自製作しているが、時間の都合上製作だけにとどまっているのは、もったいないとの意見から保育所であるお誕生会で発表することとなり、毎年行ってきたが、昨年と今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で回数が少なくなった。

「実習生を迎える最近の傾向として、実習生がピアノの楽譜を求めてくる。決してピアノが得意な学生ばかりではないが、積極的に実習中にピアノ発表に挑戦しようとするケースが見受けられるので、是非、学生に実習でピアノの演奏に挑戦するように指導いただきたい。」との意見があり、ピアノ演習の時間を増やすとともに学生のモチベーション向上のため演奏の披露の場を設けられないか検討している。

「情報処理入門」の授業カリキュラムに就職後の実務を想定したプレゼンテーションに必要なパワーポイント等を活用したプレゼンテーションの能力を身につけるための内容を追加した。教育課程編成委員会での効果確認を行い継続することとなった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、実技、演習については保育及び幼児教育の現場から経験豊かな講師を迎え、教育課程編成委員の意見を取り入れながら、より実践的なカリキュラムのもと指導を行う。

現場実習にあたっては、各園の教育および保育方針を事前に調査し、担当教員、実習園・施設の担当者及び実習生が実習の目的・内容を共有した上で日々の実習を行い評価を受ける。成績評価は、生徒の自己評価ならびに企業側の実習指導者の評価を学校に提出してもらい、実習日誌などの内容を勘案して最終評価を確定する。

実習先である園・施設等の個性を活かした実践的な体験を積み重ねると共に事前・事後指導を通して各学生の体験を発表させ、クラスで共有し、さまざまな施設の個性とニーズの存在に気付かせ、保育者としての成長を促す。連携企業(園、施設)と学生の実習を通して保育者の養成に関する現場のニーズ及び学生の気付きなどに関する検討・交流を行う。

各実習の実施にあたり、近畿大学通信課程のカリキュラムに沿った各々10時間の事前事後実習指導ならびに本校独自の実習指導を行い十分な成果を出せるように指導を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ

・教育実習は、平素座学を通じて習得してきた知識や技能を体験を通して実際の教育現場で実践することにより、幼児教育に対する理解を深めるとともに現場における指導技術や実践活動を通して学び教育者としての精神の向上と資質を高めることを目的とし、2年次の6月末～7月上旬に2週間、9月末～10月上旬に2週間の計4週間実施する。

保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習Ⅱ(保育所)もしくは保育実習Ⅲ(施設)

・保育実習は平素座学で得た知識、技能、心構えを実際の保育現場で乳幼児教育および生活指導の学習を体験することで、保育者としての精神の向上と資質を高める事を目標とする。保育実習では、乳幼児の生活指導中心に2年次に保育所に10日、3年次に児童福祉施設に10日間、および、同じく3年次に保育所または児童福祉施設のいずれかに10日間の実習を選択し計30日間実施する。

保育士現場実習、保育士インターンシップ実習

・幼稚園教諭2種免許の取得を希望しない者が保育士としての更なる実践力向上を目指すために、10日間の実習で、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践を学びながら、子育て支援を行うことを目的とする。

実習に先立ち、学生は必要な技能と知識を学内で学習・演習し、これらの実習内容を踏まえ各実習先の実習指導者との協議により現場の実情に合わせて調整を行い現場での指導を依頼する。実習生は実習規定に沿って日々の実習に赴き、実習指導者と学校双方へ記録を提出するとともに評価を受ける。この実習によって学生は、机上の学習を整理・理解し実践に繋げてゆく力を獲得する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ(保育所) 保育実習Ⅱ(保育所)	「保育実習(保育所)」は保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。「保育士実習」には「保育所」「幼保連携型認定こども園」、あるいは児童福祉法に基づく「小規模保育事業所」「事業所内保育事業所」が含まれる。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所等における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める。	高宮くすくすの丘保育園、東和愛児園、アン・シャーリー保育園、佐須奈保育園、弥永保育園等、20施設  ※福岡県内外の児童福祉施設：「保育所」「幼保連携型認定こども園」または、児童福祉法に基づく「小規模保育事業所」「事業所内保育事業所」
保育実習Ⅰ(施設) 保育実習Ⅲ(施設)	「保育実習(施設)」は保育士資格を取得するために児童福祉施設(保育所以外)で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める。	和白青松園、甘木山乳児院、甘木山学園、福岡市立西部療育センター  ※福岡県内外の児童福祉施設(保育所以外)：乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所施設、障害者支援施設等
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第1回(2週間)の実習では観察・参加実習、部分実習を、さらに、第2回(2週間)の実習では、実習指導を主とする実習を行うこととする。	野間幼稚園、茶山幼稚園、比田勝幼稚園、大橋幼稚園、かなやま幼稚園等、14施設  ※福岡県内外の幼稚園
保育士現場実習、保育士インターンシップ実習	幼稚園教諭2種免許の取得を希望しない者が保育士としての更なる実践力向上を目指すために、10日間の実習で、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践を学びながら、子育て支援を行うことを目的とする。	あさひ保育園、特定非営利活動法人 クリスタル  ※福岡県内外の児童福祉施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校全体においては、教職員研修規定に基づき①職場内研修、②職場外研修、③人権教育研修、④自己啓発研修を行う。特にこの学科の特色としては、近畿大学九州短期大学連携校の教員を対象とした研修会、同和教育、保健福祉センターが主催する育児・乳幼児教育等に関するセミナー・各種研究会に参加させている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名:「子どものあそび」サポーター育成講座」

令和6年9月8日、9月16日、9月29日

対象:子どもと関わる活動や仕事に興味がある、保護者、学生等々

主催:福岡市教育委員会

「もっと子どもたちの事を知ろう」

「遊び」についてのサポーターの役割

「安心・安全に育まれる遊び教育」

・研修名:保育士養成校と福岡市保育協会の意見交換会(連携企業等:一般社団法人福岡市保育協会)

期間:令和6年8月17日 対象:保育士養成校

保育人材の確保、育成、定着が一層円滑に行われるよう、保育士養成校と保育所運営事業者との情報や意見の交換を通じ、両者の連携をさらに強固なものとしていくことを目的としています。

・研修名:「日本インターンシップ学会」(連携企業等:日本インターンシップ学会)

期間:令和6年8月24日(土)～25日(日) Zoomによるオンライン開催 対象:日本インターンシップ学会会員

内容:インターンシップに関する学術大会

「学校教育の一環として据えて、インターンシップの健全な発展と普及すること」を主眼として、研究活動が展開されており現在、産学官の新たな関係の構築など、グローバル化の急速な進展にともない、企業・団体組織や経営体を取り巻く環境の急激な変化への対応が迫られるなかで、わが国のインターンシップは、さまざまな分野において、ますます多様な仕方で独自の発展を遂げつつあるため、インターンシップの更なる向上を目指すための学術大会。

・研修名:「設置者・園長研修会」

令和7年1月23日(木)14:00～17:30

対象:設置者・園長

内容:

講座1「こども主体性育む保育者を育む」

講座2「文科委託業者等のトッピングや各園での展開する保育者確保策の紹介、そして団体として出来る活動紹介」

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「やるきの根っこ」学内スプリングセミナー(連携企業等:学校法人実教学園)  
期間:令和6年4月14～15日 対象:F・Cフチガミ医療福祉専門学校専門課程教員  
内容:新入生に対するキャリアアップ教育指導セミナー

研修名:専修学校教員「新任教員研修」(連携企業等:職業教育・キャリア教育財団)  
期間:令和6年8月27(火)～29日(木) 対象:専修学校新任教員  
内容:専修学校教育のあり方と授業実践(16時間)  
1. 学生・教員のための実践心理  
2. 専修学校と制度  
3. 専修学校における職業教育

第36回福岡市保育研究大会(福岡市保育協会)  
期間:令和6年2月17日 13:00～15:30 法区関係者、保育科乳幼児教育科関係者  
内容:保育士育成に関する職員の質の向上を目指すシンポジウム

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・日本高等教育学会第28回大会大会校企画公開シンポジウム  
「大学を開く ―学問分野間・組織間・社会へ―」  
令和7年6月1日(日)

・第33回(通算51回)福岡県保育協議会保育士会研修研究大会  
令和7年9月4日(木)

・第2回目の保育士・栄養士就職フェア開催!!(令和7年度 福岡市保育士就支援研修()について  
保育協会主催で8月23日(土) 13:00から16:00 福岡市保育協会主催の「福岡市保育園・就職フェア」  
がアクロス福岡イベントホール  
福岡市が運営する「保育士保育所支援センター」の相談窓口ブース開設  
令和7年度、令和8年度の就職を考えている方、保育士養成校の学生の皆様及びしばらく保育士から離れている方

・研修名:日本職業教育学会大会(連携企業等:日本学術会協力学術研究団体)  
期間:令和7年10月3日(金)～5日(日)山口大会 対象:専修学校等教員  
内容:学校教育と企業内教育から見た職業教育の今後の在り方をどう築くかにつきてのや討論会を通じ、実践方法を学び、学生に対する指導力の向上を目指す。  
今年度の研究大会のテーマは「キャリア教育と心理的安全性」です。知識も経験も少なく、自信のない児童・生徒・学生がそれでも「将来こうなりたい」と言えるようになるためには、周囲から否定されず応援してもらえる心理的に安全な場が必要ではないか、教員や学校が心理的に安全な体験の場や振り返りの機会を提供する。  
1. 総会  
2. 自由研究発表  
3. シンポジウム

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「やるきの根っこ」学内スプリングセミナー(連携企業等:学校法人実教学園)  
期間:令和7年4月13(日)～14日(月) 対象:F・Cフチガミ医療福祉専門学校専門課程教員  
内容:新入生に対するキャリアアップ教育指導セミナー

研修名:専修学校教員「新任教員研修」(連携企業等:職業教育・キャリア教育財団)  
期間:令和7年8月5日(火)～7日(木) 対象:専修学校新任教員  
内容:専修学校教育のあり方と授業実践(16時間)  
1. 学生・教員のための実践心理  
2. 専修学校と制度  
3. 専修学校における職業教育

第33回(通算51回)福岡県保育協議会保育士会研修研究大会(福岡県保育協議会)  
期間 令和7年9月4日(木) 法区関係者、保育科乳幼児教育科関係者  
会場 クローバープラザ 大ホール(アリーナ棟2階) 春日市原町3-1-7  
内容:保育士育成に関する職員の質の向上を目指すシンポジウム

実践発表

テーマ:子どもの育ちを支える-専門職が行う保育-  
(各保育士会代表)

北九州市…さかい川保育園 最所 里江子

福岡市…木の実保育園 木戸 美果

福岡県…大堰保育園 石橋 実香

記念講演

テーマ:行動が気になる子どもの気づきのポイントと対応法

講師:医療法人社団かねはら小児科 院長

金原 洋治 先生

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

F・Cフチガミ医療福祉専門学校における学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とし、① 自己評価の結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。② 卒業生、関係業界、専修学校団体等の関係団体、高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る事を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育理念・教育目標は、定められているか。</li> <li>② 教育理念・教育目標は、社会のニーズにあっているか。</li> <li>③ 教育理念・教育目標は、学生・保護者に周知されているか。</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校の教育目標に沿った事業計画が策定されているか。</li> <li>② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。</li> <li>③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されており、有効に機能しているか。</li> <li>④ 人事・給与等に関する規則等は整備されているか。</li> <li>⑤ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか。</li> <li>⑥ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。</li> <li>⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。</li> <li>⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。</li> <li>② 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。</li> <li>③ 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか。</li> <li>④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。</li> <li>⑥ キャリア教育・実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が行われているか。</li> <li>⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか。</li> <li>⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。</li> <li>⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。</li> <li>⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。</li> <li>⑪ 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を整えた教員を確保しているか。</li> <li>⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか。</li> <li>⑬ 関連分野における先端的な知識等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組がなされているか。</li> <li>⑭ 職員の能力開発のための研修等がおこなわれているか。</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就職率の向上が図られているか。</li> <li>② 資格取得率の向上が図られているか。</li> <li>③ 退学率の低減が図られているか。</li> <li>④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。</li> <li>⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就職に関する支援体制は整備されているか。</li> <li>② 学生相談に関する体制は整備されているか。</li> <li>③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。</li> <li>④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。</li> <li>⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか。</li> <li>⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか。</li> <li>⑦ 保護者と適切に連携しているか。</li> <li>⑧ 卒業生への支援体制はあるか。</li> <li>⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。</li> <li>⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。</li> <li>② 学内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等については十分な教育体制を整備しているか。</li> <li>③ 防災に対する体制は整備されているか。</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 高等学校等に対して情報提供等の取り組みが適切に行われているか。</li> <li>② 学生募集活動は、適切に行われているか。</li> <li>③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。</li> <li>④ 校納金は、妥当なものとなっているか。</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 中長期的に学校の財務基盤は、安定しているといえるか。</li> <li>② 予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか。</li> <li>③ 財務について会計監査が適正に行われているか。</li> <li>④ 財務情報公開の体制は、準備はできているか。</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。</li> <li>② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。</li> <li>③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。</li> <li>④ 自己評価結果を公表しているか。</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</li> <li>② 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。</li> <li>③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか。</li> </ul>
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において、委員より教員の授業の質の向上、新しい教育方法の効果測定・教員の教授法の向上などを目的に高等学校においては研究授業、大学・短大においても教師間に公開される授業を実施し教育の質の維持向上を図っているため、教育の質の向上を目的に実施しされてはどうかとの提案があり、本校においても推進月間を定め、教員相互の授業見学を実施し、教育の質の向上を図る事となった。

また、教育理念の周知を行うため、職員会議での理念の説明、学校内(教室)内)掲示する事となった。

現場実習に関しては、実習前に学生・実習指導者、学校教員による三者協議会を開催し、効率的な実習のあり方と実習生の意識向上を目指していく事とした。

個人情報の厳守は、概ね問題ないが、年に1回程度の研修と内部監査の実施が必要ではないのかとの意見が出たため、実施する事となった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
岸川 公紀	中村学園大学短期大学部キャリア開発学科教授	2025.4.1～ 2027.3.31(2年間)	企業・団体等関係者
榎本 美千代	卒業生 社会福祉法人 福岡あけぼの会 経営企画部長	2025.4.1～ 2027.3.31(2年間)	卒業生
石田 圭子	笹丘くすくすの木保育園 園長	2025.4.1～ 2027.3.31(2年間)	企業・団体等関係者
廣津 諭	診療情報管理士 株式会社 翔葉	2025.4.1～ 2027.3.31(2年間)	企業・団体等関係者
緒方 信明	公民館長、薬剤師、診療情報管理士	2025.4.1～ 2027.3.31(2年間)	企業・団体等関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )

URL:<http://www.medical.ac.jp/>  
公表時期:原則毎年8月更新

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者評価委員会規程に基づき、今後の学校運営をより良いものにするため、学校の自己評価にともない、評価を受けるため、学校情報を提供する事を基本方針としている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②学校の沿革 ③教育方針
(2) 各学科等の教育	①入学定員・総定員・卒業生数・就職率 ②卒業後の進路:主な就職先 ③カリキュラム(カリキュラム体系表) ④資格取得
(3) 教職員	①組織図 ②担当教員分類表
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育・就職指導 ②企業実習
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事:年間スケジュール
(6) 学生の生活支援	①学生相談に関する支援体制 ②学生の健康管理支援体制・健康診断 ③緊急時対応マニュアル

(7) 学生納付金・修学支援	①学費・奨学金
(8) 学校の財務	①収支状況
(9) 学校評価	①自己点検・評価、学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	公表せず
(11) その他	職業実践専門課程の基本情報(様式4)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(                      )                      )

URL: <http://www.medical.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生涯スポーツ	各種スポーツ（バレーボール、バドミントンなど）の技能の向上を中核目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的、風土的、社会的背景についての理解を深める。また、「できる」ことに加え、「わかる」ことや「みんながうまくなること」を共通目標に設定し、グループ学習における集団的・組織的活動を重視しながら、PDCAサイクルを身に着ける。	1	30	2		○			○		○	○
○			幼児と音楽表現	声楽：グループレッスンの形態で行う。コールユーブンゲンでは音程とリズム、コンコーネでは歌唱表現を重視し、子どもの歌も使用し作品解釈を行う。 ピアノ：個人レッスンの形態で行う。学生の力量に合わせた指導を行う。	1	16	1	○			○			○	
○			教育心理学	幼児の心理学で学んだ内容について、どのように教育の中に生かしていくか学ぶ。また、就学に向けて(幼・保・小連携)の諸問題を整理し、保育の中でどう対応していくのかについて学ぶ。	1	16	1		○		○			○	
○			幼児の心理学	教育に関する諸事情について、教育の効果を高めるのに役立つ心理的知見と心理的技術を学ぶ。また、子どもを取り巻く諸問題を整理し、保育の中でどう対応していくのかについて学ぶ。	1	16	1	○			○			○	
○			健康（指導法）	幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討する。教育学、保育学、心理学、医学の諸領域による知見を理解することに加え、現代的な課題を探索することによって実践的な課題を再確認する。	1	16	1		○		○			○	
○			幼児と人間関係	人とのかわりに関する領域「人間関係」に関する教育・保育内容及び指導に関する知識・技術を学ぶ、また、子どもや保育者の事例を読み解くことで、関連する理論と結びつけながら子どもを理解する方法について学ぶ。	1	16	1	○			○			○	
○			人間関係（指導法）	幼児と人間関係で学んだ領域「人間関係」について理解を深め、教育・保育内容及び指導に関する知識・技術を学ぶ。また、実際に子どもや保育者の事例を読み解き、関連する理論と結びつけながら子どもを理解する方法について学ぶ。	1	16	1		○		○			○	

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			教育原理	教育の本質・意義・機能に関する理論的知識を習得し、現代社会における教育の諸課題について考察する力を身につける。また、幼児期の教育の基本原則と特性を理解する。	1	30	2	○			○			○		
○			造形表現（指導法）	造形の基礎となる、平面（デッサン・色彩）立体（動くおもちゃ・粘土）の作品制作を通し幼児の造形活動への理解を深める。デッサン・色彩、粘土による課題では造形基礎を学び、保育の現場で使える課題として身近な素材を使った玩具作りを行い、作品制作後、発表、制作記録、感想文を記述する。	1	32	2		○		○				○	
○			音楽表現（指導法）	音・音楽による表現を主として、言葉による表現、絵や文字による表現、動きによる表現など、様々な角度から、まずは自己を表現し、他者の表現を受け取ることを経験します。テキストに沿ってわらべうた、あやしうた、手遊び、指遊び、リズム遊び、ジャンケン遊びなどの様々な歌遊びを2人組や数人グループで頻りに相手を替えながら行い、さらには既存の歌遊びを月齢・年齢・わらべうたにに応じて展開し、遊び歌・絵描き歌の創作・発表を行う。	1	16	1		○		○					○
○			幼児と環境	子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することができる。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することができるように学び、観察力や体験力・感受性の重要性について理解する。	1	16	1		○		○					○
○			環境（指導法）	領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察する。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施する。動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特長に応じた総合的な指導力を養う。	1	16	1		○			○				○
○			幼児と言葉	人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について理解する。言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける。児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身につける。	1	16	1		○		○					○
○			言葉（指導法）	保育者として子どもの言葉の発達段階を理解し、年齢に合った言葉遊びを習得する。さまざまな言語教材の特徴について理解し、遊びに活用する方法を理解する。	1	16	1		○		○					○

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会福祉	現代における社会福祉の全体像を理解し、当事者（社会的な支援が必要な本人とその家族）への具体的な支援の事例を通して、社会福祉の全体像を理解することを目標とする。	1	30	2	○			○	○			
○			社会的養護Ⅰ	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設入所児童に対する、養護についての考え方、および児童の保護（衣・食・住）、指導、治療権利擁護、自立支援などについての理論と実際を専門的に、科学的に研究する。	1	30	2	○			○			○	
○			劇遊び（指導法）	保育者として子どもの表現活動の意義を理解し、年齢に合った劇遊びの指導法を習得する。発表会に向けての取り組みの流れ、台本作り、演出、配役・衣装・背景、小道具などのポイントについて実践を通して理解する。	1	16	1		△	○	○	△		○	○
○			教育課程総論	教育課程・保育計画の基本的な考え方、子どもの発達や遊びなどの基礎的理解を通して、教育課程・保育計画の編成や長期・短期の指導計画の作成の方法を把握することを目標とする。	1	30	2	○			○			○	
○			教育方法論	教育の方法に関する理論的知識を習得し、乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解する。それを踏まえ、保育現場における実践を構想できることを目標とする。	1	30	2	○			○			○	
○			教職概論	教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標としている。	1	30	2	○			○			○	
○			教育実習事前事後指導	幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。①幼児期の発達段階、②幼稚園の機能と役割、③幼稚園教諭の職務と役割、④観察記録の作成方法、⑤指導計画の立案方法。	1	10	1	○			○				○
○			保育内容総論	「保育所保育指針解説書」を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。	1	16	1		○		○				○
○			児童文化Ⅰ	児童文化の歴史を踏まえ、現在の児童文化についての知識を深める。児童文化財に触れ、興味関心を持ち、作ることができるようになる。伝承遊びについても、自ら遊ぶことができ、子どもたちに指導できるようにする。	1	16	1	○			○				○

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリア形成Ⅰ	自分を知り、保育の仕事についての理解を深め、今をどう生きるか自分で考え行動していく姿勢を身につける。	1	60	4	○			○	△	○		○
○			ピアノ演習Ⅰ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得及び資質の向上を目指す。一人一人のレベルに合わせたピアノレッスンをを行い、童謡の弾き歌いを目標に、ピアノ演奏法を基礎から身に付ける。	1	30	2			○	○				○
○			音楽表現技術	声楽：グループレッソンの形態で行う。コールユーブンゲンでは音程とリズム、コンコーネでは歌唱表現を重視し、子どもの歌も使用し作品解釈を行う。 ピアノ：個人レッスンの形態で行う。学生の力量に合わせた指導を行う。	2	16	1		○		○				○
○			幼児と造形表現	様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組む事で、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。	2	16	1		○		○				○
○			幼児と健康	幼児期の運動あそびを追体験することを通して、保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととパリエーションの拡げ方を理解するとともに、運動あそびの指導に必要な保育技術についても検討したい。また、運動指導の系統性に関する理論学習や保育実践記録の分析によって就学前体育の実践課題についても検討する。	2	16	1		○			○			○
○			子ども家庭福祉	児童家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う。また、保育者として子どもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を習得する。	2	30	2	○			○			○	
○			保育原理	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本、保育の思想と歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。また、保育の現状と課題について考察する。これらを通して、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識をもつことを目標とする。	2	30	2	○			○				○
○			社会的養護Ⅱ	家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャルインクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。また、特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設擁護観の形成を目指す。	2	16	1		○		○				○

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			幼児への特別な支援	インクルーシブ教育を含む特別支援教育に関する理念や制度の仕組みを理解する。特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と心理的特性および学習の過程を理解し、支援の方法について例示することを目指す。	2	16	1	○			○	○			
○			障がい児保育	障がい児支援施設の見学を踏まえ、障がい児保育の実際や保護者への支援に関する基礎的な知識、小学校への移行や他機関との連携などに関する基礎的な知識を習得する。	2	16	1		○		○	△	○	○	
○			子どもの食と栄養	保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解させ、調理の技能の習得を目指す。	2	32	2	○	△		○	△		○	
○			子どもの保健	子どもの保健の意義が分かり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発育及び、発達段階各期の特徴、子どもの保健行政について学ぶ。 また、子どもに起こりやすい疾病や事故、その予防と対策、保育者としての役割について学ぶ。	2	30	2	○			○			○	
○			子育て支援	将来において保育士にとって必要とされる相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助過程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身に付けることを目標とする。	2	16	1	△	○		○		○		
○			子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解し、家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の視点を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	2	30	2	○			○			○	
	○		教育実習Ⅰ（1回目）	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために、Ⅰでは観察・参加実習、部分実習を、さらにⅡでは指導実習を主とする実習を行うこととする。	2	80	2			○	○		○	○	
	○		教育実習Ⅱ（2回目）	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために、Ⅰでは観察・参加実習、部分実習を、さらにⅡでは指導実習を主とする実習を行うこととする。	2	80	2			○	○		○	○	

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			教育相談	子どもの心の成長やつまずき、保護者への支援に関する理解を臨床心理学的視点から深める事を通じて、子どもや家庭への支援の基礎を学び、自ら日常生活での経験とつなげて能動的に学習する。	2	30	2	○			○			○		
○			保育実習事前事後指導Ⅰ	保育：保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 施設：児童福祉施設実習に向けて、上記の内容を行う。	2	10	1				○				○	
○			保育実習Ⅰ（保育所）	保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるのか理解する。実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。	2	80	2				○	○			○	○
○			情報処理入門	代表的なオフィススイートである、Word（ワープロ）・Excel（表計算）・PowerPoint（プレゼンテーション）の3つのソフトウェアの概念や活用方法を概観し、演習を通して理解の定着を図る。	2	32	2				○	○		○		
○			児童文化Ⅱ	児童文化の歴史を踏まえ、現在の児童文化についての知識を深める。児童文化財に触れ、興味関心を持ち、作ることができるようになる。伝承遊びについても、自ら遊ぶことができ、子どもたちに指導できるようにする。	2	16	1		○		○				○	
○			健康科学	健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について学ぶ。	2	16	1	○			○			○		
○			ピアノ演習Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得及び資質の向上を目指す。一人一人のレベルに合わせたピアノレッスンをを行い、童謡の弾き歌いを目標に、ピアノ演奏法を基礎から身に付ける。	2	15	1				○	○			○	
○			キャリア形成Ⅱ	自己実現に向け、コミュニケーション能力、社会人としての基本マナー等を学生生活の中で実践し、社会に生かせるようになることを目標とする。	2	30	2	○			○			○		
○			実習指導	教育実習Ⅰ・Ⅱに向けて、1年次の復習を行うとともに、指導計画の作成、実習に向けての事前学習を行う。	2	20	1	○			○			○		
○			乳幼児心理学	乳幼児の発達の理解とそれを支援する保育者の対応を学び、保育者と子どものロールプレイを行い、子どもへの理解を深める。	2	16	1	○			○				○	

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育実践研究	保育に関する体験を通し、保育を展開する上で必要な基礎知識や基礎技能を習得する。	2	20	1			○	△	○	○		○
	○		保育士現場実習Ⅰ(保育所)	幼稚園教諭2種免許を取得を希望しない者が保育士としての更なる実践力向上を目指すために、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践を学びながら、子育て支援を行うことを目的とする。	2	80	2			○		○	○		○
		○	保育士現場実習Ⅱ(保育所)	幼稚園教諭2種免許を取得を希望しない者が保育士としての更なる実践力向上を目指すために、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践を学びながら、子育て支援を行うことを目的とする。	2	80	2			○		○	○		○
○			日本国憲法	憲法がもっとも大切にしている原理・原則は何か、そしてその原理・原則を実現するための政治のしくみはどうなっているかを体系的に学習していく。	3	32	2	○				○			○
○			英会話Ⅰ	まずは挨拶から、自己紹介、そして家族や日常の事柄をトピックにして、様々な表現や単語を学ぶ。それから実践として他のクラスメイトとインフォメーションギャップをして、話す練習をしていく。発音の練習も行う。	3	30	2	○	△			○			○
○			子ども家庭支援論	社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取り巻く社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考える。現在の保育所が求められているのは、地域における子育てセンターとしての役割である。子育てを通し親や地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。保育所の他にも、保健福祉センター、児童相談書、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が子育てを支援している。これらが社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。	3	30	2	○				○		○	
○			保育・教職実践演習	3年間の学習と実習の成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。	3	32	2	△	○			○			○
○			保育実習Ⅰ(施設)	施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解する。実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。	3	80	2			○			○		○

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			乳児保育Ⅰ	子どものあるがままの姿を理解し保育できるように、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身に付ける。また、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を習得することを目的とする。	3	30	2	○			○			○		
○			乳児保育Ⅱ	乳児期の子どもの発達について学び、その生活や遊びについて理解する。乳児の沐浴や着替え、排泄等の対応について学ぶ。保護者と保育者、関係機関等の望ましい連携について考える。	3	16	1		○		○				○	
○			子どもの健康と安全	身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。	3	16	1	△	○		○	△			○	
	○		保育実習事前事後指導Ⅱ	「保育実習（保育所）」での自己評価と課題・今後の学習目標について再度確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、「保育実習Ⅱ」に関する目的を明確にし、「保育実習Ⅱ」の終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。	3	10	1	○			○				○	
	○		保育実習Ⅱ（保育所）	「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。	3	80	2			○	○				○	○
	○		保育実習事前事後指導Ⅲ	「保育実習（施設）」での自己評価と課題・今後の学習目標について再度確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、「保育実習Ⅲ」に関する目的を明確にし、「保育実習Ⅲ」の終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。	3	10	1	○			○				○	
	○		保育実習Ⅲ（施設）	「保育実習Ⅲ」では、前回の施設実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての施設の役割を踏まえた保育実践に努める。	3	80	2			○	○				○	○
○			保育の心理学	発達の基本的知識や子どもの発達の特徴を学び、保育者として重要な「見通し」をもった発達の支援が実践できるようになることを目標とする。	3	30	2	○			○			○		
○			ピアノ演習Ⅲ	1人1人のレベルに合わせたピアノレッスンを行い、童謡の弾き歌いのレパートリーを増やすことを目標とする。	3	15	1			○	○				○	

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい科) 令和7年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリア形成Ⅲ	就職に向け自己理解をさらに深め、履歴書の書き方などを学ぶ。さらに、コミュニケーションスキルを学び、即戦力となる人材を育てる。	3	60	4	○			○	○			
○			就職指導	履歴書作成をする中で、自己分析、自己PR、志望動機、種別研究を行う。	3	30	1	○			○	○			
○			実習指導②	教育実習Ⅱ、保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて、各自の課題を明確にし、課題達成に向けての準備をする。指導計画書の作り方、実習記録の作成など、前回の実習を振り返りながら、学習を進める。	3	20	1	○			○		○		
○			保育士インターンシップ実習	保育士としての更なる実践力向上を目指すために、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践を学びながら、子育て支援を行うことを目的とする。	3	80	2			○	○	○		○	
	○		就職指導Ⅱ	保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれの選択も希望しない場合に選択する。考える力、読み書きできる力を身につけ、自分の進路を決定する。	3	90	3	○			○		○		
合計			科目					2206			単位時間( 112 単位)				
合計			全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数					1866			単位時間( 105 単位)				

※選択必修科目として、2年次160時間、3年次90時間、合計250時間の履修を必要とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は原則として既定のカリキュラムを履修しその認定を受けることとされており、最終学年終了時において単位不取得科目が3科目以上ある場合は留年と定められている。単位の認定は、次の事項に該当する者について学校長が行う。①成績評定C(60点)以上の者 ②授業時間の出席が規定時間数の3分の2以上の者	1学年の学期区分	なし
	1学期の授業期間	なし

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。